

紙づつて

静岡文化芸術大（SUAC）でゼミを担当して七年目を迎えるが、ゼミには三つのモットーがある。ゼミ（皆はイタリアゼミと呼んでいる）を志望する学生には、授業以外にこれらのモットーを遂行するよう申し伝える。

まず「薬に手を出さない」。二つ目は「社会に迷惑をかけない」。三つ目は「知的活動に投資する」。一つ目について話すと、同僚の先生方は驚かれるが、世界にはある種の薬が合法の国があって、街を歩いているだけで売りがられる可能性も決してゼロではない。二つ目は当然として、三つ目は「知的な活動に金銭を

好
武田

ゼミのモットー

惜しむな」ということである。

数百円のお金を出して、文庫や新書を自分で手に入れよう。読みたい高価な書籍は図書館に購入してもらおう。アルバイトの時給の一日分を費やして、オペラや芝居を観に行こう。展覧会や映画館にも足を運ぼう。その軌跡は三千字のリポートにして提出しよう。

短い文は得意でも、注と文献リストを付け、期日は三日以内となること、そうそう笑ってもいられない。朱を入れ返却して再提出、そんなことを繰り返すうちに、学生たちの文章力は格段に向上する。文書ソフトの校正機能もよいが、手書きの方が素早いから、学生たちは私の愛情いっぱいの悪筆の解説に挑むこととなる。赤ペンと先生はやめられないのである。（静岡文化芸術大教授）

2020.2.8

2020.2.8

中日新聞（夕刊）P.1